

第23回岩手内視鏡外科研究会

SEMINAR for ENDOSCOPIC SURGERY

拝啓

向暑の候、先生方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
この度、第23回岩手内視鏡外科研究会を下記の要項にて開催したく、ご案内申し上げます。
今回の特別講演は、兵庫医科大学 上部消化管外科 教授 篠原 尚 先生と、
東海大学医学部専門診療学系 産婦人科 教授 三上 幹男 先生にお願い致しております。
万障お繰り合わせの上ご参会下さいますようお願い申し上げます。

敬具

第23回岩手内視鏡外科研究会 当番世話人
岩手医科大学医学部 産婦人科学講座 教授 馬場 長

日時 : 令和3年7月31日(土) 14:15より
形式 : Web開催 (Zoomウェビナー) ※事前登録制 (裏面をご確認ください)
会費 : 無料

【情報提供】 14:15~14:25

癒着防止吸収性バリア「セプラフィルム」 科研製薬株式会社

【一般演題】 14:30~15:00

座長: 岩手県立二戸病院 院長 小笠原 敏浩 先生

1. 「肥満閉塞性睡眠時無呼吸患者における腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果と膵β細胞機能」

○屋成信吾¹⁾ 梅邑晃¹⁾ 西島嗣生²⁾ 石垣泰³⁾ 櫻井滋⁴⁾ 佐々木章¹⁾

1)岩手医科大学医学部 外科学講座 2)岩手医科大学医学部 睡眠医療学科 3)岩手医科大学医学部 内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科分野 4)静眠堂スリープラボシステムズ

2. 「当院における腹腔鏡下仙骨固定術の工夫と地域における今後の展望」

○竹下亮輔¹⁾ 阿部真璃奈¹⁾ 佐々木史子¹⁾ 佐藤貴紀¹⁾ 田中詩乃¹⁾ 金杉知宣¹⁾ 尾上洋樹²⁾ 馬場長²⁾

1)岩手県立大船渡病院 産婦人科 2)岩手医科大学附属病院 産婦人科

3. 「腹腔鏡下子宮筋腫核出術と術後妊娠例についての検討」

岩手医科大学医学部 産婦人科学講座

○尾上洋樹 門野彩花 土屋繁一郎 佐藤千絵 馬場長

【特別講演 I】 15:00~15:50

座長: 岩手医科大学医学部 外科学講座 教授 佐々木 章 先生

『AIがもたらす消化器外科手術のイノベーション』

兵庫医科大学 上部消化管外科 教授 篠原 尚 先生

【特別講演 II】 16:00~16:50

座長: 岩手医科大学医学部 産婦人科学講座 教授 馬場 長 先生

『婦人科腫瘍専門医認定には広汎子宮全摘出術を

習得することが必要である一何故か』

東海大学医学部専門診療学系 産婦人科 教授 三上 幹男 先生

事務局 岩手医科大学医学部 外科学講座

共催 岩手内視鏡外科研究会 科研製薬株式会社

後援 岩手県医師会 岩手医科大学医師会 盛岡市医師会 に申請中

※本研究会は、岩手医科大学大学院医学研究科教務委員会により、2021年度 医学研究科博士課程 共通教育科目「大学院セミナー」(認定コマ数 2コマ)に認定されています。

事前登録・視聴方法

下記URLもしくはQRコードより事前登録をお願い致します。

<https://bit.ly/3iIErUM>



- ①必要事項を入力し「登録」ボタンをクリックください。
- ②登録完了後、ご指定のメールアドレスへ参加用URLが自動送信されます。
(送信者は、科研製薬株 吉川 大輔 no-reply@zoom.us となります)
- ③当日は「ここをクリックして参加」からご参加ください。
※視聴のリマインドメールが開催1週間前と前日に自動配信されます。

【お問合せ先】

科研製薬株式会社 北日本支店 仙台営業所 吉川 大輔

TEL: 080-6858-3952 E-mail: yoshikawa_daisuke@kaken.co.jp

Information

●詳細は添付文書をご参照ください。添付文書の改訂に十分ご留意ください。

- *2021年3月改訂(第14版)
- *2017年11月改訂(第13版)

癒着防止吸収性パリア

セスラフィルム

ヒアルロン酸ナトリウム/
カルボキシメチルセルロース癒着防止吸収性パリア

高度管理医療機器 保険適用

承認番号: 20900BZY00790000
承認年月日: 1997年8月26日
再審査結果公表年月: 2015年3月

【禁忌・禁止】

- * 1. 適用対象(患者)
 - (1) 貼付部位に感染が認められる患者に使用しないこと。【膿瘍、腹膜炎等が発現するおそれがある。】
 - (2) 本材の成分に対し過敏症の既往歴のある患者に使用しないこと。
- * 2. 使用方法
 - (1) 再使用禁止。【本材は滅菌済み製品であり、1回限りでの使用である。】
 - (2) 本材の腸吻合部縫合線上へのラッピングは行わないこと。【本材を吻合部にラッピングした患者群で吻合部縫合不全、膿瘍、瘻孔、腹膜炎、敗血症の発生率が高かったとの報告がある。】

形状・構造及び原理等

1. 形状・構造

本材は生体吸収性材料であり、原材料としてヒアルロン酸ナトリウム及びカルボキシメチルセルロースを2:1の割合(重量比)で含有する。本材は、半透明のフィルム状である。
2. 原理
 - (1) 本材は、物理的(力)として癒着防止効果を発揮する。
 - (2) ツットを用いた試験では、本材は、適用後約12～48時間以内で水和したゲル化になり、およそ1日間は貼付した組織に留まり、体内に吸収された後は、28日以内に体外へ排出される。

*3. 種類

本材には以下の種類がある。

包装種類	フィルム1枚あたり		1袋あたり フィルム合計面積
	寸法	面積	
1枚入り×1袋	12.7cm×14.7cm	186.69cm ²	-
2枚入り×1袋	12.7cm×7.35cm	93.35cm ²	186.69cm ²
4枚入り×1袋	12.7cm×7.35cm	93.35cm ²	373.38cm ²
4枚入り×1袋	7.35cm×6.35cm	46.67cm ²	186.69cm ²

使用目的又は効果

術後の癒着の軽減(腹部又は骨髄腔の手術患者に対して、腹部切開創下、腹腔損傷部位、または子宮及び付着器損傷部位に貼付し、術後癒着の頻度、範囲、程度を軽減する)。

使用方法等

1. 本材は、腹部又は骨髄腔の手術が終了し、腹部又は骨髄腔を閉じる直前に適用すること。
 2. 本材は、必要に応じてフィルムをカットし、使用前、乾いた状態にしておくこと。【本材は、湿性組織への付着性が高いため、使用前に湿らさず貼付できない。】また、本材適用に使用する器具は出来るだけ乾いた状態にしておくこと。
 3. 余分な本材は、本材が組織と付着するのを妨げるので、使用部位をできるだけ乾いた状態にしてから使用すること。
 4. 切開部及び開通する外科的損傷部位が、十分に覆われるよう貼付すること。
 5. 本材を適用する際、他の組織に付着しないよう使用部位に直接貼付すること。【適用部位以外の組織に付着した場合は、生理食塩水等を用いて穏やかに剥がすこともできる。】
 6. 2枚以上使用する場合は、損傷部が完全にそして連続して覆われるように充分重ねて使用すること。
 7. 本材は、蒸気して使用しないこと。
【使用方法等に関する使用上の注意】
- *1. 本材の取扱いには、乾いた器具や手袋を用いるなど慎重に行うこと。
*2. いったん本材を組織に貼付した後は、本材を動かさないこと。
*3. 本材は、水分を吸収すると著しく弾性が低下し、適切に貼付を行うことができないため、特に腹腔鏡下手術で使用する場合は、腹腔鏡下手術及び本材使用の十分な経験を有する医師が使用すること。
*4. デニール(内容の透明部分)は、患者体内への接触適用を意図していないので、生体には接触しないよう注意すること。
*5. 以下のような手順で使用する。
1) 適用直前にポリエチレンホイルを剥離し、滅菌済みの内包を、清潔な区域に取り出す。
2) 内包から、本材の入ったホルダーを取り出す。
3) 本材をホルダーから取り出す前に、乾いたハサミで貼付する適用部の大きさに切り取る。
4) ホルダーから本材を1～2cm取り出し、それをリッドとして適用組織に貼付する。
5) 必要に応じて、本材の入ったホルダーを少し前向きに傾かし、腹部・骨髄腔に挿入し易くする。
6) 組織又は臓器の所定の部位にしっかりと接着するよう乾いた手袋又は、ガーゼを用いて本材を穏やかに押さえるが、ホルダーより本材を少しずり取り出す。
7) 適用後は、ホルダーを廃棄する。
8) 貼付が終了したら、通常の手法でこの閉鎖する。

使用上の注意

1. 使用注意(次の患者には慎重に適用すること)
腹部内に感染が認められる患者(腹部内に感染または穿孔のある患者)において膿瘍、腹膜炎等の報告がある。]
2. 重要な基本的注意
 - * (1) 意欲の減弱(アレルギー)の患者に本材を使用した場合の安全性及び有効性については、臨床で確立していない。
 - (2) 本材使用後に、疼痛、腹部膨満、及び発熱の臨床症状を伴う異物反応が報告されている。このような症状を認めた場合には、適切な措置を施すこと。
 - (3) 本材の使用後に免疫性反応、膿瘍等が報告されているので、術後の生体反応を厳密に監視して使用すること。
 - * (4) 他の癒着防止材との併用で、本材を適用した場合の安全性及び有効性については、臨床で確立されていない。
 - (5) 本材はガンマ線滅菌されている。開封後再度滅菌して使用しないこと。また、使用前に本材の包装が開封されたり、破損している際は使用しないこと。
3. 不具合・有害事象

使用成績調査終了時(実施期間:1998年4月1日～2000年8月25日)、収集症例数724例中、有害事象報告は8例(1.1%)10件であった。その主なものは、発熱4件(0.6%)、めまい、嘔気、便秘症、心臓部痛及び腹腔内出血が各1件(0.1%)であった。

 - (1) 重大な有害事象
 - 1) 創部感染、膿瘍、膿瘍炎、敗血症: 創部感染、膿瘍、腹膜炎、敗血症(いずれも頻度不明)が認められたことがあるので、観察を十分にを行い、異常が認められた場合は適切な処置を行うこと。
 - 2) ショック: ショック(頻度不明)が認められたことがあるので、観察を十分にを行い、異常が認められた場合は適切な処置を行うこと。
 - (2) その他の有害事象

下記の臨床症状があらわれることがあるので、異常が認められた場合は適切な処置を行うこと。

	0.2～1%未満	0.2%未満	頻度不明 ^{*)}
* 腹部事象		腹腔内出血	めまい、嘔気、便秘症、心臓部痛、発熱
その他	発熱	めまい、嘔気、便秘症、心臓部痛	アレルギー反応、肝臓障害、発熱症、敗血症、腹膜炎、下痢

注) 自発報告により認められている有害事象のため、頻度不明。
*) 肝臓中の使用に関する安全性は確立していないので、妊娠又は妊娠している可能性がある婦人には使用しないことが望ましい。

- *5. その他の注意

海外のトレスベクティブ研究において、特に、極めて特殊で限定されたバルーンカテーテル手術を要した卵巣癌、反応性腹腔炎又は卵巣癌患者で本材を使用した場合には、腹腔内出血、膿瘍の発現リスクが高かったとの報告がある。

保管方法及び有効期限等

1. 保管方法: 密閉保存
2. 有効期限: 3年

2021A



発売元
科研製薬株式会社
東京都文京区本駒込2丁目28-8

**製造販売元(輸入)

バクスター株式会社
東京都中央区晴海一丁目8番10号